

巻頭言

世界同時不況が進行するなか、経済・社会の構造転換の必要性が叫ばれている。いったい経済構造、社会構造をどのように変えていけば世界同時不況が克服され世界経済が活性化するのか、について色々な試みが提唱されている。革新的、創造的に社会システムの方向を大きく変える舵取り（イノベーション；革新）が政策として各国で取り上げられている点が共通している。その一つに、「グリーンニューディール（A Green New Deal）」政策がある。アメリカのオバマ大統領が打ち出したもので、脱炭素社会の創造に向けた再生可能エネルギーの拡大等への環境関連投資を10年間に1,500億ドル（約15兆円）して500万人の雇用創出を提唱した。同様の政策は、ドイツ、フランス、イギリス、中国などでも提唱されている。

日本では、環境省が「緑の経済と社会の変革」を取り纏め、我が国の持つ世界最高水準の環境技術分野への戦略的投資により、経済成長と雇用創出につなげていく取組を強力に進めていくべきとした。残念ながら投資規模についての言及はない。この中で5つの変革のキーワードとして、緑の社会資本への変革、緑の投資への変革、緑の消費への変革、緑の技術革新、緑の地域コミュニティへの革新が上げられている。即ち、緑の社会インフラ整備への積極的投資により社会システムをグリーン中心に変革していくことが金融危機により崩壊した世界経済を克服する一つの鍵であるとしている。

さて、今回の Best Value のテーマであるイノベーションについてグリーンの視点から見てみたい。本年4月29日の日本経済新聞経済教室に掲載された東大名誉教授で芝浦工業大学教授である児玉文雄先生の論文の見出し“世界同時不況下の経営戦略、技術開発「飛び越し型」軸に、過去の延長断ち切れ、新たな社会システム構築”が目に入り込んだ。まさに新たな社会システム構築に向けた息の長い取り組みが我が国の大きな課題であろう。15.4兆円の追加経済対策は不況脱出には不可欠な政策とは思えるが、未来ある展望を国民が描ける経済政策の具体的明示が同時に必要ではなかろうか。この点にもどこかしさを感じる。

脱炭素社会の再生可能エネルギーインフラを構築する技術革新を担うものとして効率よく大容量の電気を蓄積する蓄電池が上げられている。リチウムイオン電池（二次電池）の革新がグリーンな電気自動車の普及を加速させ現在の自動車を一変する。二世紀にわたる石油を燃料にするエンジン（内燃機関）を一掃する自動車の技術革新である。また、燃料電池自動車も水素と酸素から発電した電気が動力で電気自動車と同様にエンジンがない。技術が「飛び越し型」のまさにイノベーションである。

また、蓄電池の発達が集中型電力供給システムを分散型供給システムに転換させ、再生可能エネルギーに特化した地産地消の電力供給システムの普及に貢献し、欧米で提唱されているスマートグリッド（賢い次世代電力供給網）をベースとするシステムが構築されることになる。まさにこの技術革新により過去の延長が断ち切れ、新たな社会システムが構築されることになろう。

21世紀の半ばには我が国の技術革新と技術革新を先取りした経営革新、積極的な将来への大型投資などが新たな活力ある革新的な明るい社会システムを創造する原動力になると信じている。是非とも官民が共同してイノベーションのための投資環境整備に力を注いであらう。

代表取締役社長 黒川 俊夫